

知財金融セッション

◆ 金融システムと知的財産、事業性評価と知財評価 ◆

【パネリスト】

- 1) 小林英司 【特許庁総務部普及支援課企画調査官】
- 2) 中道規雄 【デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー執行役員】
- 3) 吉田 敏 【池田泉州銀行 先進テクノ推進部長 兼 リレーション推進部長】
- 4) 猪原理生 【近畿大阪銀行執行役員法人ソリューション部長】
- 5) 林 茂樹 【大阪工業大学知的財産学部学部長】 : モデレーター

【内 容】

中堅・中小企業のイノベーション促進は、日本の産業競争力向上や、地域経済にとっても極めて重要な課題である。

イノベーション促進のためには、中堅・中小企業の事業を発展させるための資金供給が必要であり、金融機関が中堅・中小企業の事業を理解し、総合的に支援することが不可欠であるが、従前地域金融機関は知財の知識と経験が十分とは言い難く、知財を切り口とした事業評価を踏まえた融資を行うことは厳しい状況にあった。

そのため、特許庁主導で、平成26年度から、知的財産を活用したビジネスを評価する「知財ビジネス評価書」を活用し、地域金融機関が知的財産を用いたビジネスの価値を理解し、融資の拡大につなげる施策が開始されており、加えて平成27年度からは「中小企業知財金融促進事業」として事業化されている。知的財産戦略本部も平成30年度から「経営をデザインする」として知財のビジネス価値評価に注力している。

このように知財を活用した金融の機運が高まってきている。事業性評価に取り組む中、知財ビジネス評価書を活用し始めた金融機関は、知財ビジネス評価書から得られる情報を融資や支援業務に幅広く活用し始める等、金融機関の支援も多様化してきている。

本企画セッションでは、知財金融が成長し、我が国のイノベーションに貢献するために、以下について議論する予定である。

1. 特許庁等の各種施策の実効性と課題
2. 地域金融機関による知財金融の現状と課題
3. 直接金融も含めた金融全体から見た知財金融の将来像

以 上

知財金融セッション

◆ 金融システムと知的財産、事業性評価と知財評価 ◆

【登壇者略歴】

- 1) 小林英司：1997年特許庁入庁。審判官・審査官（特許）として、社会基盤分野の審判・審査に従事。また、知財制度の改正、知財活用に係る施策及び審判制度の運用についての企画・立案担当などを経て、2017年4月から、現職において中小企業・地域知財支援を担当。
- 2) 中道規雄：大阪大学基礎工学部卒業。国内大手都市銀行を経て、2000年に監査法人トーマツ（現、有限責任監査法人トーマツ）大阪事務所に入社（パートナー 2008年～）。以来、M&A アドバイザリー、デューディリジェンス、企業価値評価、知的財産関連、再生支援業務など M&A 全般にわたるプロセスの支援や不正調査業務にも従事し、経験多数。（社）日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト、ネットワークスペシャリスト、第1種情報処理技術者、FP1級。
- 3) 吉田 敏：同志社大学文学部卒業、池田銀行入行、池田泉州銀行 大阪西支店長、先進テクノ推進部 副部長、先進テクノ推進部長を経て、2018年8月より現職。
- 4) 猪原理生：滋賀大学経済学部卒業、大阪銀行（現近畿大阪銀行）入行
今里支店長、法人企画部長、法人統括部長、本町営業部長、戦略融資営業部長を歴任後、執行役員法人ソリューション部長（現職）
- 5) 林 茂樹：一橋大学商学部卒業、ロンドン大学大学院経営学修士課程修了（ロンドンビジネス スクール スローンフェロー）、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）、新規事業投資（株）取締役を経て、大阪工業大学知的財産学部教授就任（学部長 2014～）。関西ベンチャー学会会長、一般社団法人知財経営ネットワーク代表理事。

以 上